

コンサルタント委員会第 IX 期活動
調査研究小委員会 活動計画書

平成 17 年 6 月 29 日改訂

第 IX 期(今期活動の)小委員会名称	PM 技術の実用化小委員会
(今期活動の)委員長名	(氏名) 野村 吉春 (所属) セントラルコンサルタント(株)

- 活動計画概要 -

項 目	摘 要
調査研究概要	<p>公共事業を取り巻く市場環境は、従来の調査・設計等が減少する一方で、社会的要求の多様化とともに、事業の執行過程において解決すべき課題はむしろ増加する傾向にある。つまり、問題解決の潜在需要が存在し、コンサルタント技術者の果たすべき役割が大きいことを意味する。しかしその方法論、役割分担、対価等が不明瞭なために PM 技術が十分機能していない。裏方として高度な技術を無償で提供しているケースも少なくない。そこで、「問題解決の PM 技術」を研究・整備・導入することで、事業の円滑化に寄与すると同時に、今後のコンサルタント技術者に活躍の場を提供することを目的とする。</p> <p>事業の執行過程での問題点の抽出し、PM 技術の観点から解決のプロセスを研究し、マネジメントの適切な役割分担を提案する。今期は、現場における試行を通じた「PM 技術の実用化あるいは商品化」への進展を目指す。</p>
目 標 成 果	<p>PM 技術の現状及び動向調査 PM 技術の実施状況を把握するとともに、今後の動向等について把握する。 事業執行上の問題点(解決メニュー)の抽出 事例調査、各種情報等をもとに選定するが、既に PM 市場を形成しつつあるメニューよりも、今後の潜在需要(ニッチ)に着目し、需要が顕在化していない場合には新たな PM 市場を創り出す契機を提供したい。</p> <p>PM 要素による要因分析 問題点について PM B O K の定義による PM の 9 要素との相関性を分析し、その障害要因等を明らかにする。</p> <p>問題解決 PM 技術の抽出 幅広く官需の動向を押さえるとともに、民間企業や NPO などの民需を含めた今後の幅広い需要の動向を探りたい。試行を含めた検討を行ないたい。</p> <p>PM 技術の実用化 問題解決の PM 技術をビジネスモデル(商品化)にブラッシュアップする。実用に向けた導入ツールとして PM 技術ガイドブック、PM 技術事例集、標準仕様、標準歩係り等の整備を考え、一定の対価(社会コスト)の概念を導入したい。</p> <p>広報活動の実施 出前講座、シンポジウム、HP への公開等を企画したい。</p>

<p>活動形態 と 工程</p>	<p>H16年度 PM技術の現状調査 PM技術の動向把握 事業執行過程の問題点抽出～PM要素による特性分析</p> <p>H17年度 問題改善のPM技術の検討 PM技術の実用化＝商品化の研究 PMツールの整備（PM技術ガイドブック、標準仕様、標準歩係り等） 広報活動の実施（シンポジウム、HP公開等）</p> <p>主な活動内容 1) 定期小委員会の開催 1回/1ヶ月 2) 特別講師を招いた小委員会の開催 2回程度 3) ヒアリング 2)との兼ね合いで実施 5) HPへの公開 6) シンポジウム開催 1回</p>
<p>予定する 成果公表 形式</p>	<p>1) HP掲載を主体とした情報公開 特別講師を招いた小委員会の開催/シンポジウム開催/アンケート調査/整理可能な範囲の情報公開をしたい</p> <p>2) H17年度のシンポジウムで成果を公表。</p> <p>3) H17年度中に「PM技術ガイドブック」を製本配布 巻末にPM技術事例集、標準仕様、標準歩係り等を掲載したい 実費販売とする（シンポジウムに間に合うとベスト）</p>
<p>小委員会 委員構成 (H17.06.29)</p>	<p>委員長名：野村 吉春 / 所属： セントラルコンサルタント(株) 委員名：渡邊 仁 / 所属：(株)三菱地所設計 委員名：塚本 敦彦 / 所属：(株)三菱地所設計 委員名：大西 徳治 / 所属：西松建設(株) 委員名：杉山 敏彦 / 所属：大日本コンサルタント(株) 委員名：中坂 忍 / 所属：(株)ニュージェック 委員名：朝倉 恒夫 / 所属：玉野総合コンサルタント(株) 委員名：熊谷 健一 / 所属：日本建設コンサルタント(株) 委員名：畔柳 耕一 / 所属：八千代エンジニアリング(株) 委員名：田中 健治 / 所属：東京エンジニアリング(株) 委員名：幸田浩明 / 所属：(株)長大</p> <p>委員構成 合計 11名 (学 0名, コンサル外 3名, コンサル 5名)</p>